

平成28年度第3回

中小企業景況調査報告書

平成28年 10月～12月期 報告
平成29年 1月～3月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成28年10月～12月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 勝浦市商工会、袖ヶ浦市商工会、旭市商工会、野田市関宿商工会、南房総市朝夷商工会、印西市商工会、大網白里市商工会、成田市東商工会、東庄町商工会、富津市商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成28年10月～12月を対象とし、調査期間は平成28年11月5日～11月15日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業種	回答企業数	構成比
製造業	28	17.0%
建設業	28	17.0%
小売業	44	26.7%
サービス業	65	39.4%
合計	165	

(小数点1位以下四捨五入)

(2)業種別構成

① 建設業

業種	回答企業数	構成比
総合工事業	13	46.4%
職別工事業	13	46.4%
設備工事業	2	7.1%
合計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比
食料品製造業	11	39.3%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	7.1%
家具・装備品製造業	1	3.6%
パルプ・紙・紙加工品製造業	1	3.6%
金属製品製造業	3	10.7%
一般機械器具製造業	2	7.1%
精密機械器具製造業	1	3.6%
その他製造業	7	25.0%
合 計	28	

(小数点1位以下四捨五入)

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比
各種商品小売業	1	2.3%
織物・衣服・身の回り品小売業	6	13.6%
飲食料品小売業	22	50.0%
家具・建具・じゅう器小売業	4	9.1%
その他小売業	11	25.0%
合 計	44	

(小数点1位以下四捨五入)

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比
一般飲食店	23	35.4%
宿泊業	4	6.2%
運送業	3	4.6%
自動車整備業	13	20.0%
洗濯・理美容業	12	18.5%
その他のサービス業	10	15.4%
合 計	65	

(小数点1位以下四捨五入)

本報告書中の[DI 値]とあるのは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

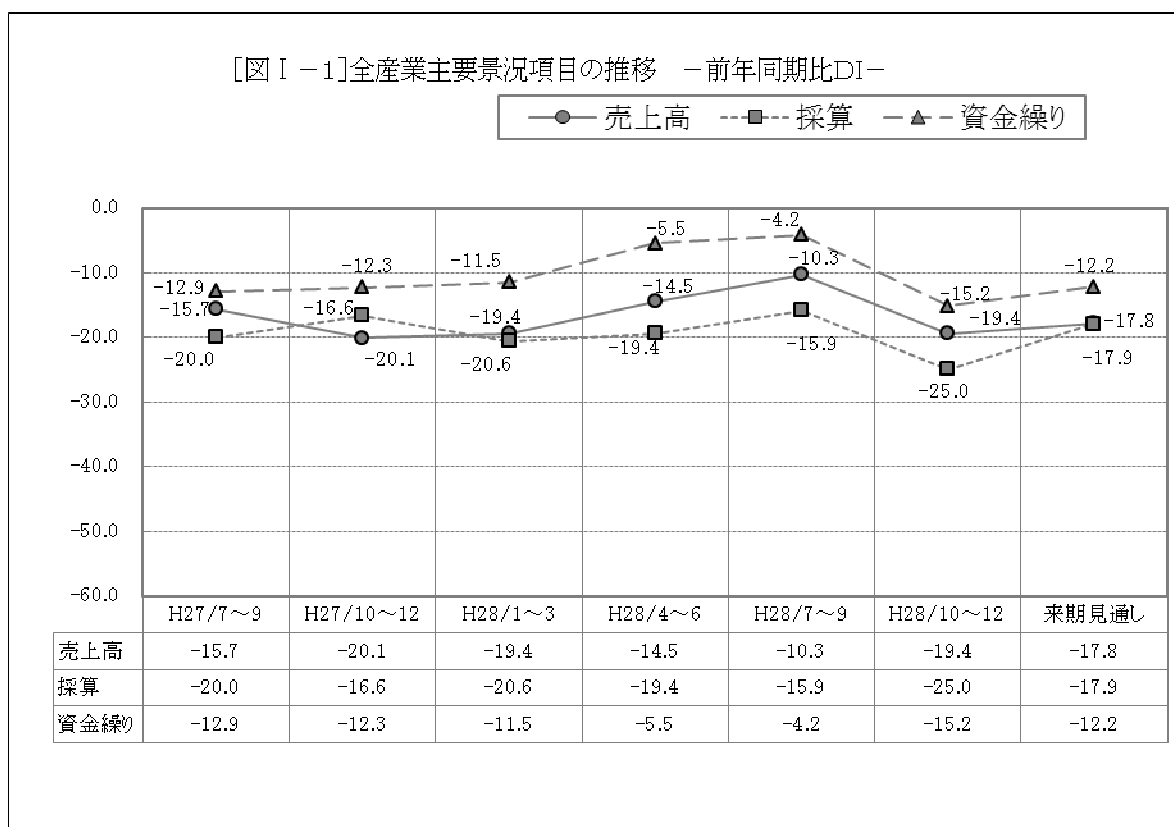
“懸念材料が多く、先行き不透明感残る”

千葉県商工会地区の平成28年10～12月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図I-1]に示したとおり、今期売上高DI値は-19.4、前期（平成28年7～9月期、-10.3）比で9.1ポイントマイナス幅が拡大。同採算DI値は-25.0、前期（-15.9）比で9.1ポイントマイナス幅が拡大。また、資金繰りDI値は-15.2、前期（-4.2）比で11.0ポイントマイナス幅が拡大しており、全項目で悪化している。

また、前年同期（平成27年10～12月期）調査と比較してみると、売上高DI値は、前年同期（-20.1）比で0.7ポイント増、採算DI値については、前年同期（-16.6）比で8.4ポイントマイナス、資金繰りDI値は、前年同期（-12.3）比で2.9ポイントマイナスといずれもマイナス幅が拡大している。

今期も、業種によるバラツキがあり、製造業については、売上高、採算のDI値のマイナス幅は縮小しているが、サービス業と建設業については、全ての項目においてマイナス幅が大幅に拡大しており、小売業についても、売上高、資金繰りのDI値のマイナス幅が拡大している。














来期（平成29年1～3月期）については、全項目でDI値はやや改善する見通しとなっているが、依然、先行きは不透明である。



Ⅱ. 各産業の景況

1. 製造業の景況

“円安の影響で持ち直すも、先行きの不透明感が増す”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

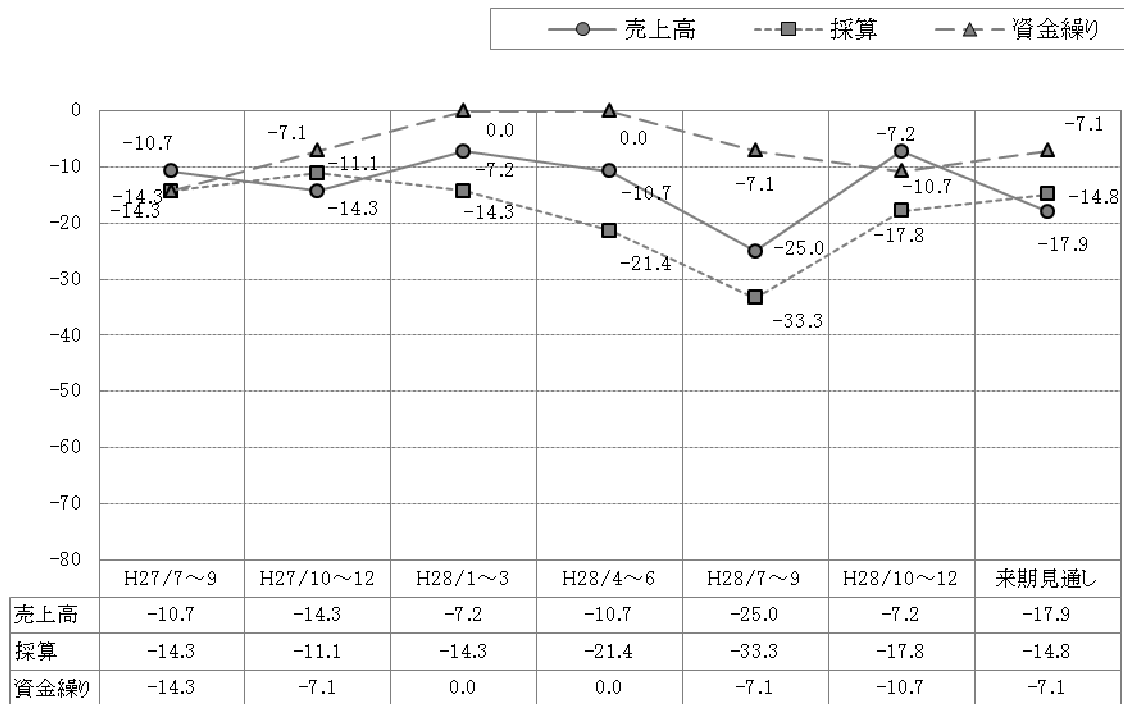
千葉県商工会地区における製造業の景況は、円安の影響が大きく、前期と比べると、売上高 DI 値は 17.8 ポイント、採算 DI 値は 15.5 ポイントそれぞれマイナス幅が縮小。資金繰り DI 値については 3.6 ポイントマイナス幅が拡大した。

需要の停滞を問題とする事業者は減っており、引合い自体は改善されている。一方で、製品ニーズの変化を問題点とする事業者は増えており、環境変化への対応が求められている。また、原材料高騰や製品（加工）単価の低下、従業員の確保難といった問題点は依然として多い状況となっている。

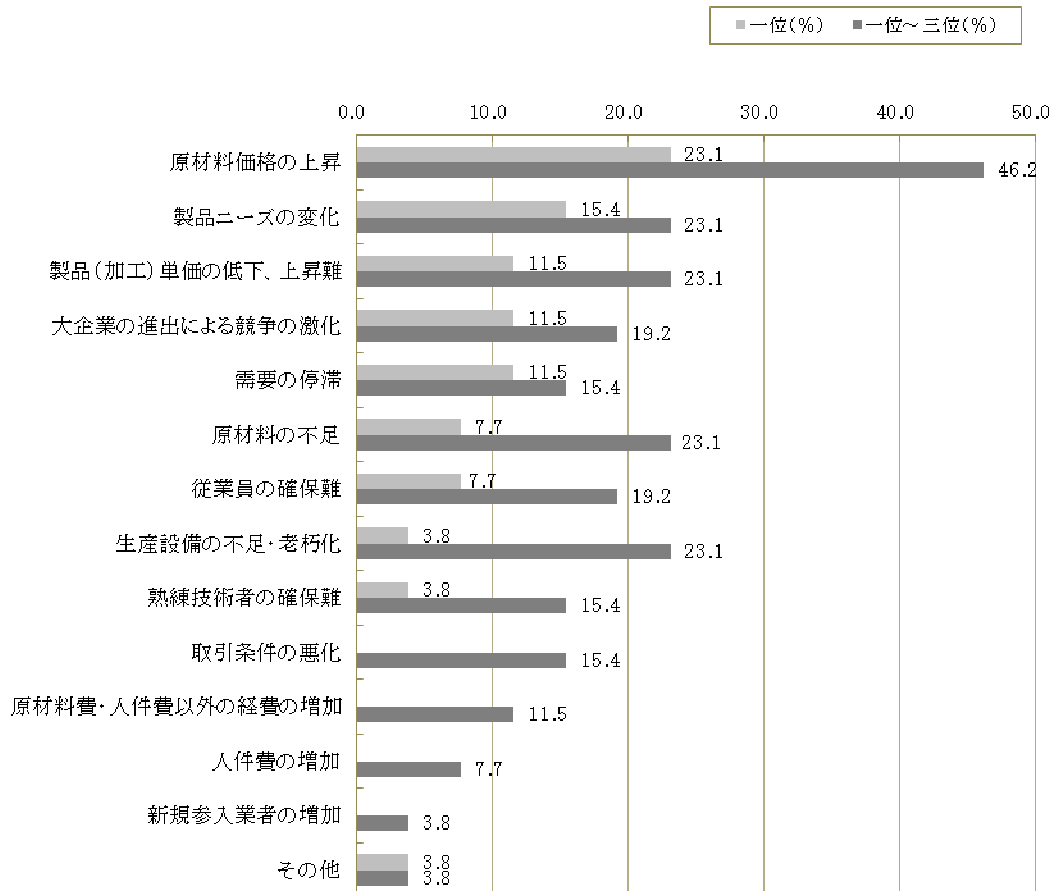
来期については、トランプ新政権の政策リスク等海外情勢の不透明感が増しており、売上高 DI 値については、悪化する見通しも、採算、資金繰り DI 値は改善する見通し。

今期は新規設備投資については 2 社が実施。内訳は、生産設備、工場建物となっている。また、来期は 3 社が計画しており、工場建物、OA 機器の導入を予定している。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

“公共事業の前倒しによる反動で景況は悪化”

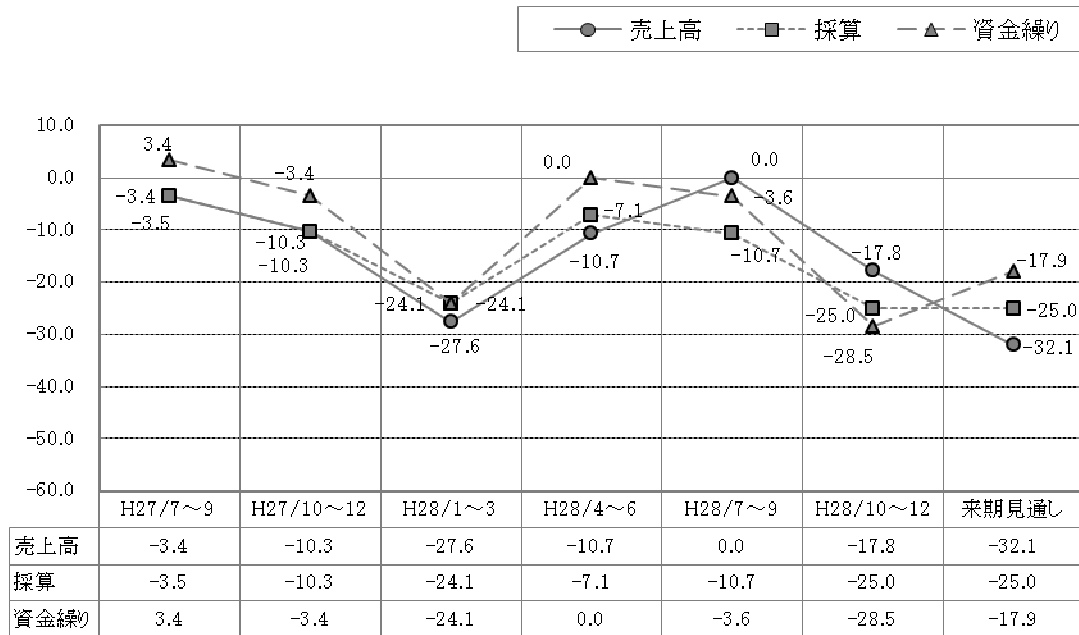
	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における建設業の景況は、前期に公共工事前倒しがあったことから、反動がでてきている。また、取引条件の悪化を問題点としてあげる事業者が増えており、請負単価の低下、材料価格の上昇、熟練技術者の確保難、従業員確保難、下請業者の確保難を問題視する事業者が依然多いことから、採算、資金繰りにも影響が出ている。このため、売上高 DI 値は-17.8 ポイント、前期（0.0 ポイント）比で 17.8 ポイントマイナス幅が拡大。採算 DI 値については-25.0 ポイントで前期（-10.7 ポイント）比-14.3 ポイント、資金繰り DI 値は-28.5 ポイントで、前期（-3.6 ポイント）比-24.9 ポイントとそれぞれ悪化している。

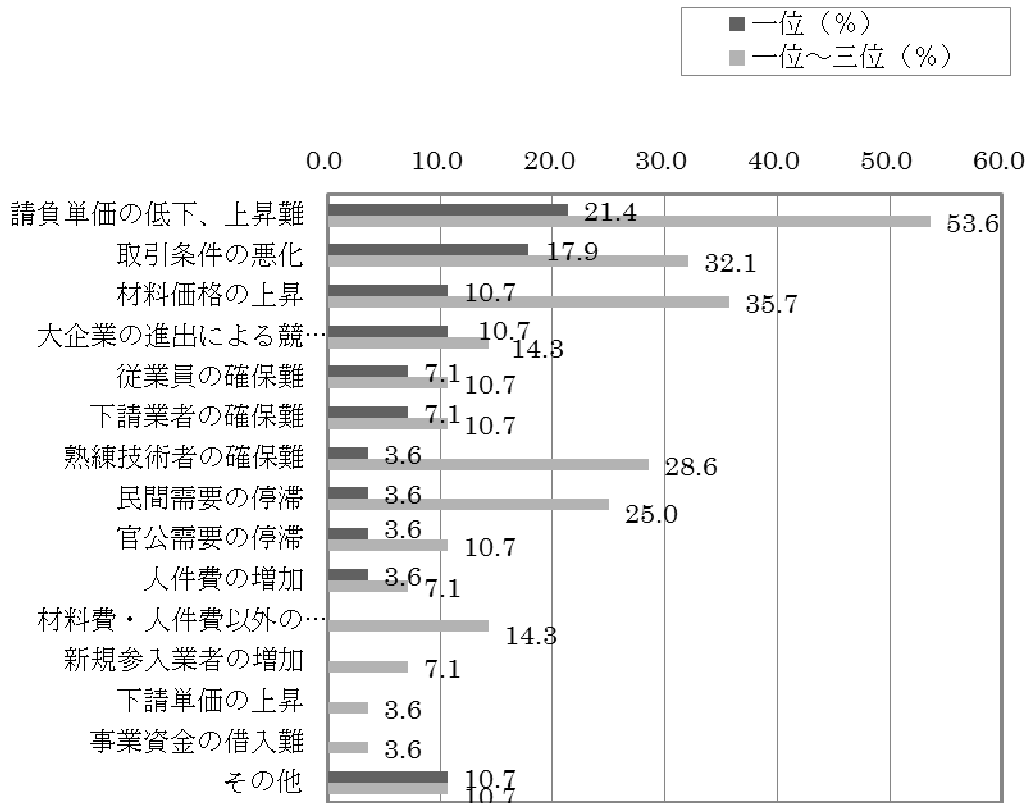
来期については、新規契約工事や引合い件数が減少していることから、完成工事額は、さらに悪化する見通しとなっている。

新規設備投資について、今期は実施なし。来期計画は 3 社となっており、建物、車両・運搬具、OA 機器などの導入を予定している。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

“消費マインドが弱く、企業努力するも、売り上げは厳しい”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区における小売業の景況は、依然として消費マインドは弱く、商圈の拡大及び大型店との競争力不足により、売上高 DI 値は-22.8 で、前期（-20.5）よりも 2.3 ポイントマイナス幅が拡大。資金繰り DI 値についても-11.3 で前期（-9.1）から 2.2 ポイントマイナス幅が拡大している。

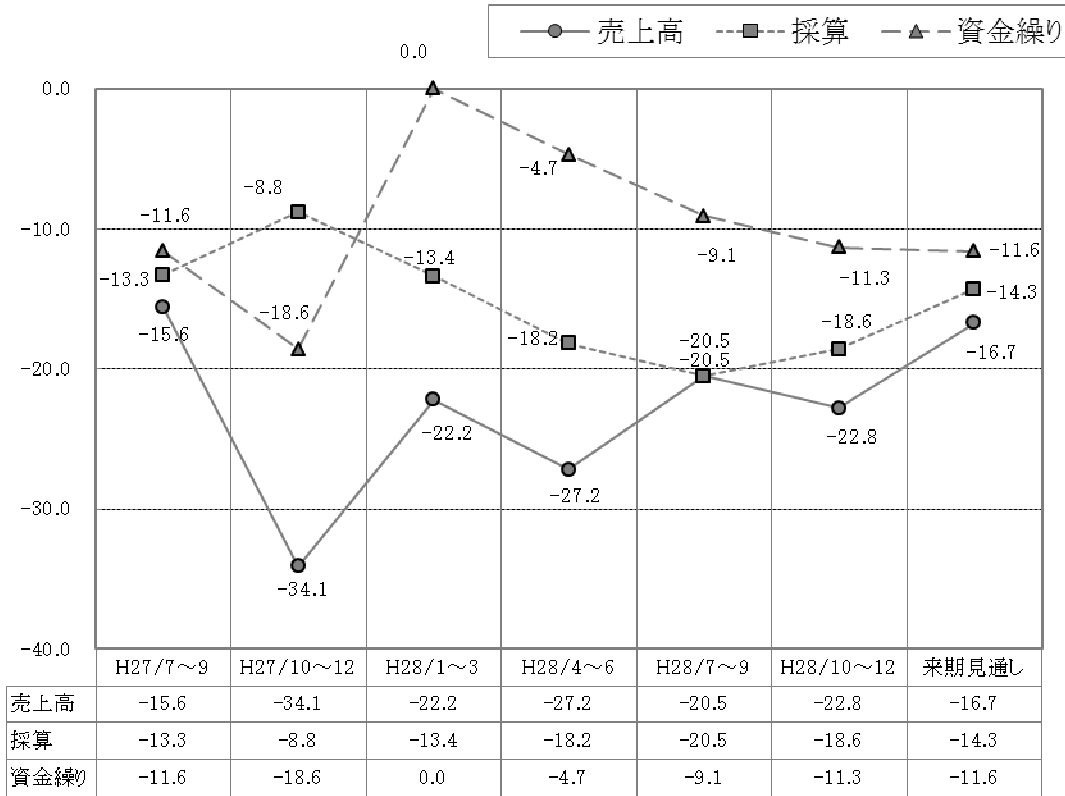
一方で、仕入単価の上昇を問題点とする事業者が減っていることから、ある程度、価格転嫁が出来てきていると考えられ、採算 DI 値については-18.6 で、前期（-20.5）から 1.9 ポイントマイナス幅が縮小している。

来期については、寒冬が予測されるため、衣料品や家電を中心に売り上げが回復される見通しであることと、中国人観光客の購買力への期待から、売上高 DI 値と採算 DI 値については改善する見通しとなっている。

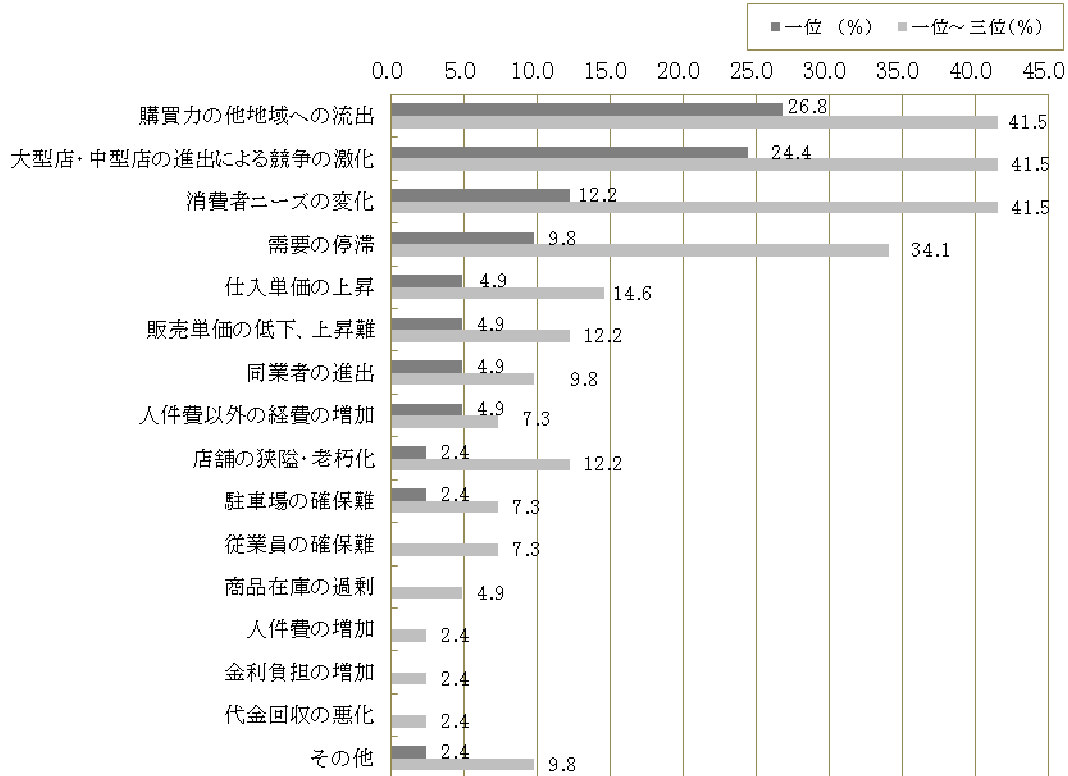
大型店・中型店の進出や購買力の他地域への流出を問題点としてあげる事業者が前期同様に多く、企業努力をしているものの、競争激化により客単価が減少傾向にある。また、消費者ニーズの変化への対応も大きな問題点となっており、品揃えや店舗レイアウトの工夫など魅力的な店舗づくりについては、引き続きの課題である。

新規設備投資については、今期は 1 社が実施。内訳は、販売設備、車両・運搬具を導入している。また、来期計画は 3 社で、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器の導入を予定している。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“マイナス要素が重なり、景況感は悪化”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、消費マインドが弱いのに加え、天候不順、材料費の高騰等マイナス要素が重なり、売上高 DI 値については-23.0 ポイントで、前期（-1.5）より 21.5 ポイント、採算 DI 値については、-32.3 ポイントで前期（-7.7）から 24.6 ポイント、資金繰り DI 値についても-13.8 ポイントで、前期（0.0）から 13.8 ポイントと全項目でマイナス幅が大幅に拡大している。

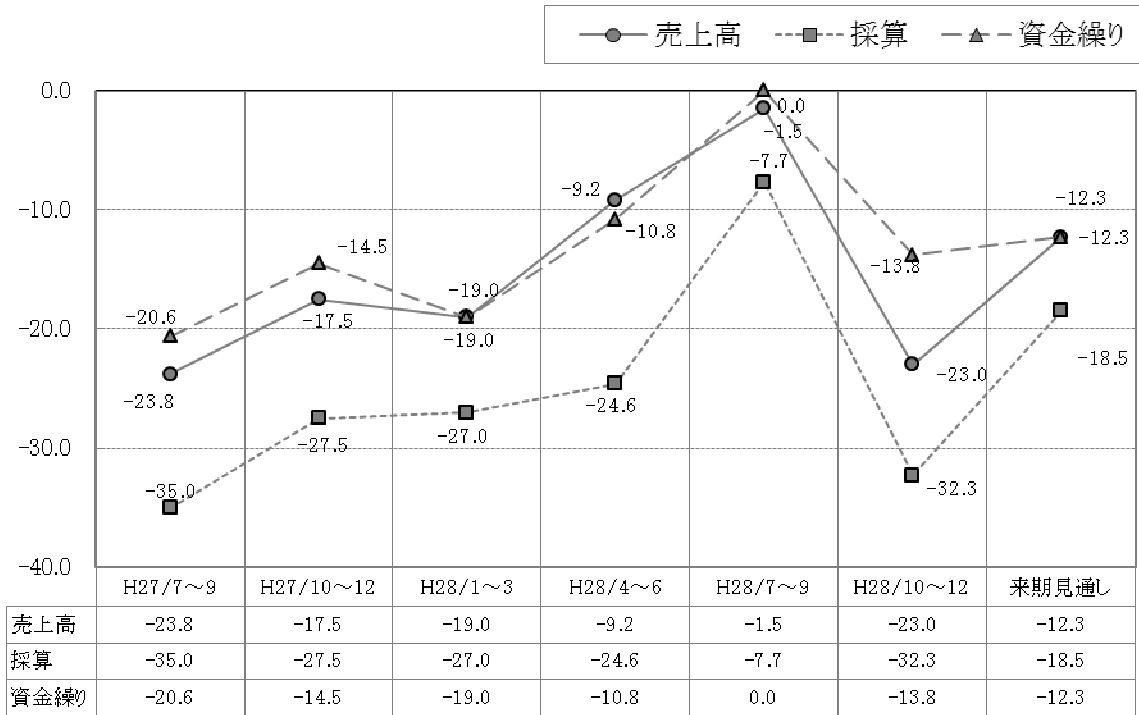
従業員の確保難や大企業の進出による競争の激化を経営上の問題点とする事業者はやや減少してきており、差別化によるサービスが見直されてきている一方で、利用者ニーズの変化や材料等仕入単価の上昇や利用料金の低下・上昇難を問題点とする事業者が増加してきていることから、価格転嫁が課題となっており、客単価・利用客数ともに減少している。

また前期同様、店舗施設の狭隘・老朽化を問題としている事業者は多く、今期は 5 社が設備投資を実施したものの、事業継続・拡大のための設備投資が依然として課題である。

来期については、売上高、採算、資金繰り DI 値は、それぞれ改善する見通しである。

なお、新規設備投資については、5 社が実施。内訳は、サービス設備、付帯施設などとなっている。また、来期計画では 6 社が、建物、サービス設備、車両・運搬具、付帯施設、OA 機器、福利厚生施設などの導入を予定している。

[図Ⅱ-7] サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8] サービス業 経営上の問題点の状況

